

令和7年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

令和7年10月23日
広島県西部農業技術指導所

- 1 害虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis*(Chou & Lu)
- 2 発生作物 果樹全般（カンキツ、ブドウ、モモ、イチジク等）
- 3 特殊報の内容 果樹全般での発生及び加害を初確認
- 4 発生経過
 - (1) 令和7年10月6日、広島県南東部のブドウとモモほ場にて、ハゴロモ類の成虫・幼虫及び枝に産卵痕を確認した。神戸植物防疫所に同定依頼したところ、チュウゴクアミガサハゴロモであると同定された。
 - (2) 令和7年10月21、22日に行ったかんきつの発生予察巡回調査では、県内島しょ部の複数の地点で本種の成虫、産卵痕が確認された。
- 5 国内の発生状況

国内では、平成29年に大阪府で初めて確認され、これまでに全国で16都府県から病害虫発生予察特殊報が発出されている。
- 6 形態及び生態
 - (1) 本種はカメムシ目であり、成虫の体長14～15 mm。前翅は茶褐色～鉄さび色である。前翅前縁中央に三角形の白斑が存在する（写真1）。幼虫は白色であり、腹部から白い糸状の蠟物質の毛束が広がる。産卵痕は白い毛状の蠟物質で被覆される（写真2, 3）。
 - (2) 国内における年間発生世代数など、生態は不明な点が多い。
- 7 被害及び主な加害作物
 - (1) 成虫及び幼虫が枝を吸汁する。集団で吸汁すると排泄物により、すす病が発生する。
 - (2) 成虫が枝の樹皮を剥いで産卵するため、細枝の枯死や樹勢の低下につながることもある。
 - (3) 本種は極めて広食性であり、農作物ではリンゴ、ナシ、ウメ、モモ、スモモ、オウトウ、ブドウ、カンキツ、カキ、イチジク、ブルーベリー、オリーブ、キウイフルーツ、チャ、宿根アスター等で加害報告がある。
- 8 防除対策
 - (1) 令和7年10月現在、チュウゴクアミガサハゴロモに対する登録農薬はない。
 - (2) 成虫、幼虫は見つけ次第捕殺する。産卵された枝は次年度以降の発生源となるため切除してほ場外に持ち出し、土中深くに埋めるなど適切に処分する。



写真1 レモンに寄生する成虫



写真2 ウンシュウミカン枝上の産卵痕

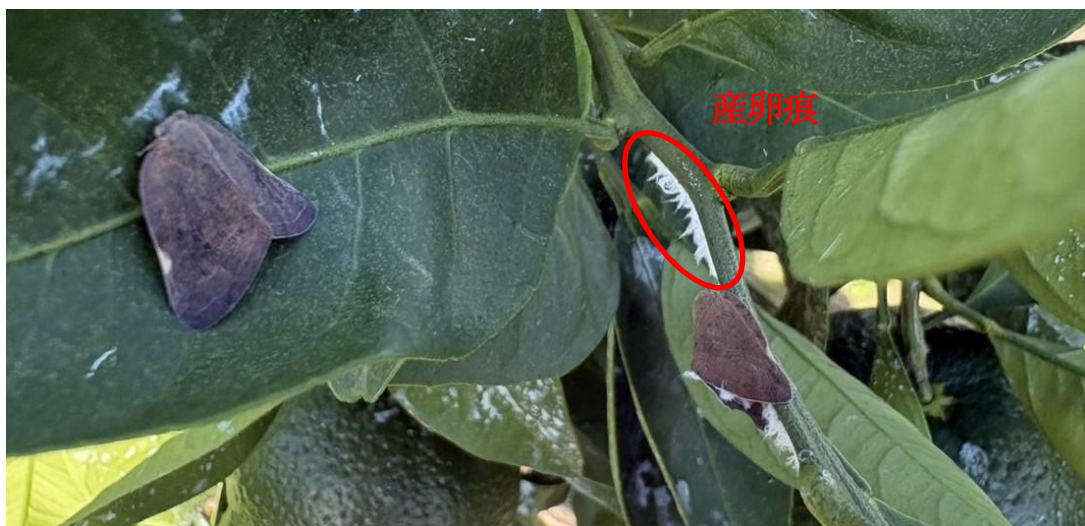


写真3 ウンシュウミカンに寄生する成虫

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所（植物防疫チーム）

（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662 ）

広島県立総合技術研究所 農業技術センター生産環境研究部

（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-429-0521 ）

農林水産局農業技術課

（〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3559 ）

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>